

金沢大学 地域連携推進センター

自己点検・評価 報告書

平成25年3月

## 自己点検評価の方針

1. 理念と目標
  - 1-1設置の経緯
  - 1-2センターのミッション
    - A) 生涯学習部門
    - B) 地域連携部門
  - 1-3センターの重点事業
  - 1-4センターの人員構成
  - 1-5センターの運営
  - 1-6センター施設の概要
  - 1-7関連施設の概要
2. 生涯学習部門事業
  - 2-1生涯学習事業の企画実施
    - A) 公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - B) ミニ講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - C) 金沢大学市町共催講座・・・・・・・・・・・・・・・・ 【社会教育振興会及び石川県】
  - 2-2指導者養成事業
    - A) 金沢大学社会教育主事講習・・・・・・・・・・・・ 【文部科学省受託事業】
    - B) 学校図書館司書教諭講習・・・・・・・・・・・・ 【文部科学省受託事業】
    - C) その他
      - ①北陸4大学連携まちなかセミナー(金沢会場)の開催・【センター教育施設事業費】
      - ②市町生涯学習・社会教育担当者等研修の開催・・ 【社会教育振興会及び石川県】
      - ③生涯学習振興に係るフォーラム等の開催・・・・・・・・ 【社会教育振興会及び石川県】
      - ④教育事務所管内別生涯学習研究会の開催・・・・・・・・ 【社会教育振興会及び石川県】
      - ⑤中央区との連携による講座の開催・・・・・・・・・・・・ 【総務部経費】
      - ⑥北國新聞社との連携による講座の開催・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
      - ⑦読売新聞社との連携による講座の開催・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
3. 地域連携部門事業
  - 3-1学生による地域連携事業
    - A) 能登の祭り支援プロジェクト・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - B) まちなか活性化プロジェクト・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - C) 地域交流プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - D) 学生チャレンジ事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費及び寄付金】
    - E) WEB-KURS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - F) 社会貢献のための学生ネットワークの構築・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
  - 3-2里山・里海を活用した地域連携事業
    - A) 「能登里山マイスター」養成プログラム・・・・ 【外部資金・科学技術振興調整費】
    - B) 「能登里山里海マイスター」育成プログラム・・・・ 【外部資金・受託事業】
    - C) 能登半島里山里海アクティビティ・・・・・・・・ 【外部資金・三井物産環境基金】
    - D) 「能登いきものマイスター」養成講座・・・・・・・・ 【外部資金・日本財団】
    - E) 里山再生学の構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【文部科学省運営費交付金・特別経費】
  - 3-4大学と地域
    - A) タウンミーティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
    - B) 地域連携シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
4. センター支援事業
  - A) 能登オペレーティング・ユニットへの支援・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
  - B) 角間里山本部への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】

5. センター提供科目（授業）
  - A) 共通教育科目（地域連携学入門）
  
6. 広報活動
  - A) ホームページによる発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
  - B) パンフレット・情報誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【センター教育施設事業費】
7. 外部資金受入状況（参考資料）
8. 外部委員の評価のコメント

## 自己点検評価の方針

金沢大学地域連携推進センターは、本学の第 2 期中期計画に基づいて本年度に自己点検評価を行うこととし。設置された平成 20 年 4 月から平成 23 年 3 月までの 3 か年を対象として第 1 回目の自己点検評価をすでに平成 23 年 3 月に実施している。

今回、前回の自己点検評価後の 2 年間（平成 23 年 4 月から平成 25 年 3 月）を対象に、前回の評価を踏まえ、当該センターの機能をより強化し、ルーティン化されることにとられない、新しい地域連携の新機軸を打ち出せたか、また継続性の高い事業についても、より改善を図りながら、新しい観点を取り入れ事業を推進できたかを、点検し評価するものである。

自己点検評価の実施にあたっては、センター長を委員長とする自己点検評価委員会を設置することにした。実施方法は、自己点検評価委員会のメンバーである専任教員、事務職員がそれぞれ管掌する業務について過去 2 年間の業務実績を整理し、自己評価を行うというスタイルで統一した。業務実績の概要は、部外者にもできるだけ理解しやすいように図表を活用するよう努めた。

自己点検評価報告書の完成後には、地域連携に関わる学識経験者に外部評価を求め、報告書とともに HP で公開することにした。一連の自己点検作業が終了したのちには、大学内において事業報告会を開催し、今後の地域連携推進センターのあり方について広く意見聴取を行う予定である。

### 1.理念と目標

#### 1-1 設置の経緯

金沢大学では、社会から大学への地域貢献の期待に対応するため、平成 14 年 5 月に「地域貢献推進室」を発足させた。平成 16 年 4 月に国立大学が法人化した際には、そのミッションを明確化するために「社会貢献室」へと名称を変更した。さらに平成 20 年 4 月には、金沢大学の生涯学習の拠点である「大学教育開放センター」と「社会貢献室」を統合し、現在の地域連携推進センターが発足した。（図 1 を参照）

#### 1-2 センターのミッション

金沢大学地域連携推進センターの使命は、金沢大学の教員、職員、学生が大学内で培った研究と教育の成果を広く地域社会に還元し、最先端の研究成果を広く一般社会に伝えることにある。しかし、金沢大学で取り組んでいる最先端の研究成果を社会に還元する方法は、地域連携推進センターを通じたものだけではない。新しい技術を開発してそれを新商品に生かすやり方もあるし、専門書を執筆して多くの読者に読んでもらうという方法もある。

地域連携推進センターは、「地域連携のワンストップ窓口」を標榜し、金沢大学と地域との連携窓口となることを目標としている。地域社会が大学の知的資源を求めて金沢大学に立ち寄ろうとする時、あるいは大学が地域で研究・教育活動を展開したいと考えている時に、気楽に立ち寄れる存在となることがわれわれの目指す姿である。

#### A) 生涯学習部門

生涯学習部門の事業は、金沢大学の教員による研究の成果を公開講座やミニ講演などを通じて地域社会にわかりやすい形で還元することに重点を置いている。とくに、高等教育機関である大学でしかできない生涯教育を目指している。さらに、地域の人々が持っている生涯学習への意欲をサポートしている社会教育主事や学校図書館の利活用に役割が期待される司書教諭の資質向上のための事業を遂行することも、生涯学習部門では大きな使命となっている。

B) 地域連携部門

地域連携部門の事業は、金沢大学の研究・教育の成果を地域社会に還元するためのパイプ役を果たすことに重点を置いている。地域にとっては、教員による高度な研究の成果が地域社会に還元され、若い学生が地域の現場で活動することを何よりも求めている。地域連携部門は、地域社会から寄せられる大学への期待を高等教育機関が取り組むべき課題として整合させ、研究と教育との整合性を図りながら推進することが大きな使命となっている。(図2 地域連携推進センター組織図を参照)

|                                  |                                |            |                 |    |
|----------------------------------|--------------------------------|------------|-----------------|----|
| 1976.5                           | 2002.5                         | 2004.4     | 2008.4          | 現在 |
|                                  | 地域貢献推進室設置                      | 社会貢献室に名称変更 | 地域連携推進センターに組織統合 |    |
| 大学教育開放センター設置                     |                                |            |                 |    |
| ●国立大学で2番目<br>(学内共同教育研究施設としては全国初) | ●地域貢献コーディネーター配置<br>(地域貢献では全国初) |            |                 |    |

図1 設置の経緯

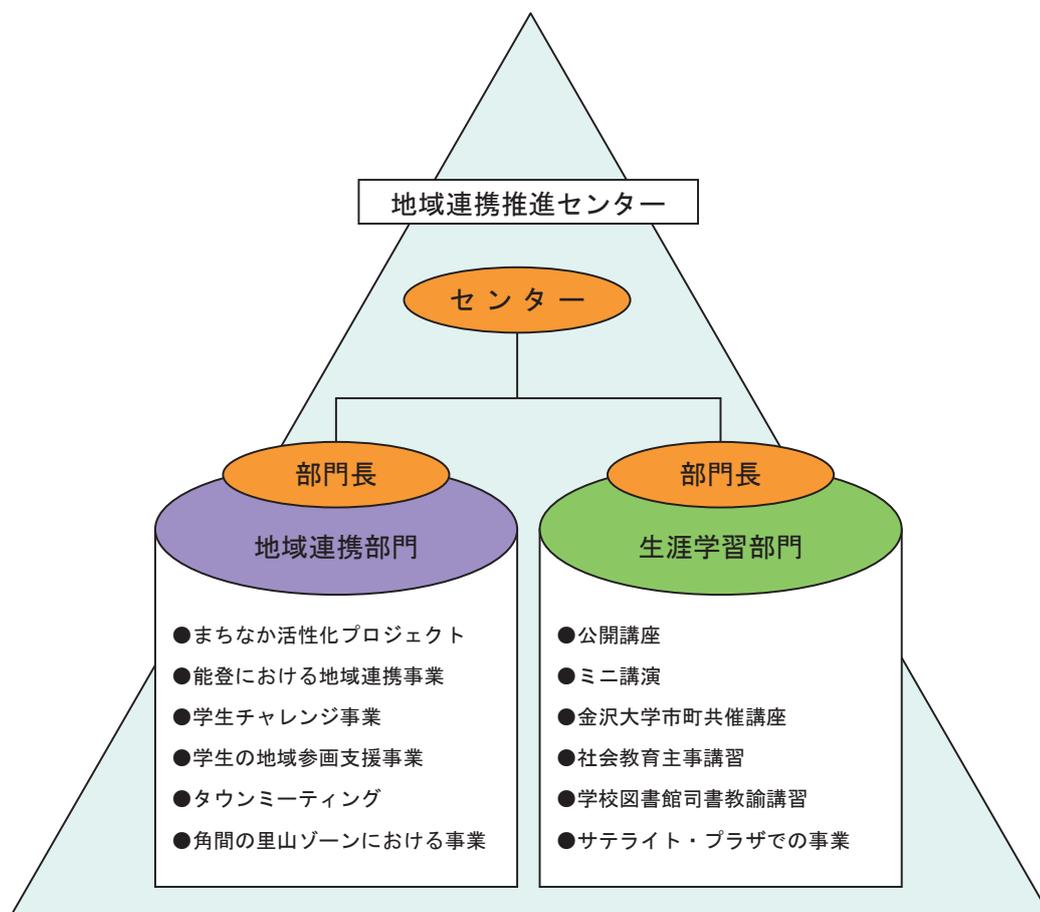


図2 地域連携推進センター組織図

### 1-3 センターの重点事業

1-2 のセンターのミッションを実現するため、事業を効率的に遂行し、確実に目標を達成するため、平成 23 年度から、重点的に実施する事業を掲げ実施することとした。

まず、年度ごとに事業計画を立案し、その中ですでに外部資金を獲得しているものやルーティン化しているものを除き、今後、外部資金を獲得する可能性や事業展開が見込めるものを重点項目として掲げ、予算や人員を優先的に投入して事業を実施した。

そのことにより、全事業の進捗を可視化できるだけでなく、重点事業を明確化して着実に実行することにより、戦略的に生涯学習と地域連携の推進を実行できた。

### 1-4 センターの人員構成

地域連携推進センターは、2 部門（生涯学習部門、地域連携部門）から構成される。

現在の教員組織は、センター長 1 名（併任）、専任教授 1 名、専任准教授 1 名（平成 21 年度に欠員補充）、センター教員 11 名（併任）の体制となっている。

事務組織は、改組に際し、情報部情報企画課から総務部総務課に移行し、平成 21 年度には、主任が係長昇任となり、副課長 1 名、係長 2 名、事務補佐員 5 名（センター内 1 名、サテライト・プラザ交代勤務 4 名）の体制となった。

また、外務資金（プロジェクト）雇用として、16 名が配置されている。

#### 教員および事務組織

H25.3.1 現在

|    | センター長 | 教授<br>(生涯学習部門) | 准教授<br>(地域連携部門) | センター教員 | 事務職員<br>(副課長) | 事務職員<br>(係長) | 教務補佐員 | 技術補佐員 | 事務補佐員 |
|----|-------|----------------|-----------------|--------|---------------|--------------|-------|-------|-------|
| 定員 | —     | 1              | 1               | —      | 1             | 2            | —     | —     | —     |
| 現員 | (1)   | 1              | 1               | (11)   | 1             | 2            | 1     | 1     | 5     |

( ) は併任

#### 外部資金（プロジェクト）雇用

H25.3.1 現在

|    | 特任教授 | 客員教授 | 博士<br>研究員 | 研究員 | 教務<br>補佐員 | 技術<br>補佐員 | 事務<br>補佐員 |
|----|------|------|-----------|-----|-----------|-----------|-----------|
| 定員 | —    | —    | —         | —   | —         | —         | —         |
| 現員 | 1    | 1    | 6         | 1   | 3         | 0         | 4         |

#### センター職員一覧

| 名前                  | 所属             | 職名  |
|---------------------|----------------|-----|
| 地域連携推進センター教員（併任含む。） |                |     |
| 神谷 浩夫（併任）           | 人間社会研究域人間科学系   | 教授  |
| 浅野 秀重               | 地域連携推進センター     | 教授  |
| 松下 重雄               | 地域連携推進センター     | 准教授 |
| 佐川 哲也（併任）           | 人間社会研究域人間科学系   | 教授  |
| 吉田 国光（併任）           | 人間社会研究域人間科学系   | 准教授 |
| 武田 公子（併任）           | 人間社会研究域経済学経営学系 | 教授  |
| 綿引 伴子（併任）           | 人間社会研究域学校教育系   | 教授  |
| 齊藤 一彦（併任）           | 人間社会研究域学校教育系   | 教授  |
| 浅井 暁子（併任）           | 人間社会研究域学校教育系   | 教授  |
| 高山 純一（併任）           | 理工研究域環境デザイン学系  | 教授  |
| 稲垣 美智子（併任）          | 医薬保健研究域保健学系    | 教授  |
| 中村 浩二（併任）           | 環日本海域環境研究センター  | 教授  |

|                     |               |       |
|---------------------|---------------|-------|
| 長尾 誠也（併任）           | 環日本海域環境研究センター | 教授    |
| 八重澤 美知子（併任）         | 留学生センター       | 教授    |
| 宇野 文夫               | 地域連携推進センター    | 特任教授  |
| （地域連携推進センター 教育スタッフ） |               |       |
| 國司田 晴美              | 地域連携推進センター    | 教務補佐員 |
| （生涯学習スタッフ）          |               |       |
| 細木 行美               | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| 葛城 地都子              | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| （サテライト・プラザスタッフ）     |               |       |
| 徳田 美由紀              | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| 新田 優子               | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| 木村 美智子              | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| （特別経費 里山再生学 研究スタッフ） |               |       |
| 笠木 哲也               | 地域連携推進センター    | 博士研究員 |
| 木村 一也               | 地域連携推進センター    | 博士研究員 |
| 堀内 美緒               | 地域連携推進センター    | 博士研究員 |
| （特別経費 里山再生学 管理スタッフ） |               |       |
| 掛野 由香               | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| 岡部 聖                | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| 割出 智美               | 地域連携推進センター    | 事務補佐員 |
| （いきものマイスタースタッフ）     |               |       |
| 野村 進也               | 地域連携推進センター    | 教務補佐員 |
| （里山里海マイスタースタッフ）     |               |       |
| 小路 晋作               | 地域連携推進センター    | 博士研究員 |
| 伊藤 浩二               | 地域連携推進センター    | 博士研究員 |
| 宇都宮 大輔              | 地域連携推進センター    | 教務補佐員 |
| シュクル ラフマン           | 地域連携推進センター    | 教務補佐員 |
| 水口 亜紀               | 地域連携推進センター    | 研究員   |
| （角間の里 管理スタッフ）       |               |       |
| 明翫 充                | 地域連携推進センター    | 技術補佐員 |
| 笠木 幸枝               | 地域連携推進センター    | 教務補佐員 |
| （事務局 総務部総務課）        |               |       |
| 池端 良伸               | 総務部総務課        | 副課長   |
| 総務課地域連携係            |               |       |
| 竹田 裕一郎              | 総務部総務課地域連携係   | 係長    |
| 総務課生涯学習係            |               |       |
| 西田 幸代               | 総務部総務課生涯学習係   | 係長    |

#### 1-5 センターの運営

センターは、地域連携推進センター規程に基づき運営されている。

毎週水曜日には、センター長、専任教員、部門長によるランチ・ミーティングを開催し、事業の企画提案及び報告が行われる。

センター教員会議は、センター長、専任教員、部門長、センター教員により、適宜、開催し、各事業の企画立案、方向性について議論し、各部局との連携協力を図っている。

また人事、予算等センターの重要な意思決定に際しては、センター教員会議委員、基幹会議からの選出された委員により、センター会議を開催し、センターの運営について審議される。

### 1-6 センター施設の概要

外部資金による雇用で、人員が大幅に増えたため、平成 22 年度には、資料室をコーディネーター室、小講義室をワークルームに変更した。また、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、市民や学生が利用しやすい環境を整備するため、講義室に液晶モニターやパソコン、電波時計を導入した。またセンター長室についても、教職員が学生や地域住民と打ち合わせするために開放し、カーペットの張り替え、椅子、パーテーション等を導入し、学生や市民が利用しやすいよう環境を整備した。さらに、入口のロビーが薄暗く入りづらいとの市民の声に応え、省エネルギーに配慮した LED 照明を導入し、センターを気持ちよく利用できるための雰囲気作りに配慮した。

総面積：530 m<sup>2</sup>（廊下・階段等含む）

|        |     |           |     |
|--------|-----|-----------|-----|
| センター長室 | 1 室 | 講義室       | 1 室 |
| 教員室    | 2 室 | ワークルーム    | 1 室 |
| 事務室    | 1 室 | コーディネーター室 | 1 室 |

### 1-7 関連施設の概要

平成 12 年 9 月、教育研究、地域交流、社会人に対する教育の提供、大学情報の収集・発信等に資することを目的に、石川県立社会教育センター内に金沢大学サテライト・プラザ（学びと情報の発信拠点）が開設された。平成 13 年 4 月からは、金沢市西町教育研修館に場所を移し、現在に至っている。

公開講座、ミニ講演、研究会等の開催、大学情報の発信のほか、金沢大学のサテライトキャンパスとしてゼミ・発表会等に広く活用されている。



【地域連携推進センター 施設外観】



【入口ロビーの LED 照明】



【地域連携推進センター長室】



【講義室】



【サテライト・プラザ内部】

## 2.生涯学習部門事業

### 2-1 生涯学習事業の企画実施

#### A) 公開講座

##### ・趣旨

本学の教育・研究の成果を広く地域社会に公開し、地域住民の学習ニーズに応えるとともに地域文化の向上、地域の活性化に資することを目的として実施する。

##### ・実施状況

平成 23 年度 37 講座開設 受講者 479 人

平成 24 年度 32 講座開設 受講者 434 人

##### ・実施内訳

|     | 人間社会研究域 | 理工研究域 | 医薬保健研究域 | その他部局等 |
|-----|---------|-------|---------|--------|
| H23 | 8 講座    | 2 講座  | 5 講座    | 22 講座  |
| H24 | 7 講座    | 2 講座  | 3 講座    | 20 講座  |

##### ・評価

公開講座は、一般市民又は職業人などに対し、本学が有する専門的、総合的な教育機能を、生活上、職業上の専門的な知識・技能や一般教養等を身につけていただく機会として提供するものであるが、実施回数等に一定の限界があり、学びの系統性や継続性という点で、課題がないわけではない。

同時にまた、教養的な側面の講座だけではなく、人権、環境、高齢化などの社会的要請に応えることのできる講座の開設についても今後さらに取り組む必要があると考える。併せて、社会人のキャリアアップやボランティア等地域での活動に活かすことのできるような講座の開設についても努めてまいりたい。



【公開講座の様子】

## B) ミニ講演

### ・趣旨

本学サテライト・プラザにおいて、本学教員がおおむね月に1回、比較的タイムリーなテーマを設定し、講義等を行い、地域の方々の高度化・多様化する学習ニーズに応える機会として実施する。

### ・実施状況

平成 23 年度 10 講座 受講者 498 人

平成 24 年度 7 講座 受講者 403 人

### ・実施内訳

|     | 人間社会研究域 | 理工研究域 | 医薬保健研究域 | その他部局等 |
|-----|---------|-------|---------|--------|
| H23 | 3 講座    | 3 講座  | 1 講座    | 3 講座   |
| H24 | 1 講座    | 4 講座  | 1 講座    | 1 講座   |

### ・評価

本学の市街地における事業展開の拠点であるサテライト・プラザでのミニ講演は、2000(平成 12)年 9 月に第 1 回目を開催してから本年度で 141 講座となる。

本学教員の先進的、先導的な研究の成果を市民に明らかにする機会を提供するとともに、地域住民の学習ニーズに応えることのできるホットなテーマを設定するなど公開講座とは異なったスタイルで学習機会を提供してきた。

今後とも学内の広範な教職員の理解を得るよう努めながら推進していきたい。



【ミニ講演の様子】

### C) 金沢大学 市町共催講座

#### ・趣旨

県又は市町若しくは個々の公民館等で企画する学級や講座の講師として金沢大学等の教員等を派遣する事業で、県及び市町の出捐（補助金又は負担金）を原資として、県及び市町並びに社会教育関係団体等で構成する金沢大学社会教育研究振興会が実施する。

#### ・実施状況

平成 23 年度 12 市町 23 講座 1,734 人受講

平成 24 年度 11 市町 21 講座 1,260 人受講（平成 25 年 3 月 15 日現在）

#### ・実施内訳

|     | 人間社会研究域 | 理工研究域 | 医薬保健研究域 | その他部局等 | 名誉教授 | 学外者  |
|-----|---------|-------|---------|--------|------|------|
| H23 | 2 講座    | —     | 7 講座    | 8 講座   | 4 講座 | 2 講座 |
| H24 | 7 講座    | 1 講座  | 7 講座    | 1 講座   | 4 講座 | 1 講座 |

#### ・評価

市町共催講座は、市町の担当者が本学教員総覧、研究紹介データベース等を利用しながら企画した講座について、テーマ、担当講師、日程等を協議しながら実施にいたるもので、大学と市町の教育委員会とが連携協力して行っている事業である。

現在、本県には 19 市町あるが、全自治体での実施に向け努めるとともに、市町とのやりとりを通じながら、当該自治体の社会教育・生涯学習の振興に資する支援を継続していきたいと考える。



【金沢大学 市町共催講座の様子】

## 2-2 指導者養成事業

### A) 金沢大学社会教育主事講習

#### ・趣旨

社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 9 条の 5 の規定及び社会教育主事講習等規程（昭和 26 年文部省令第 12 号）に基づき、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えることを主な職務とする社会教育主事の資格を付与することを目的として実施する。

#### ・実施状況

平成 23 年度 7 月 19 日(火)～8 月 19 日(金) 受講者 42 人、修了者 37 人  
(学内講師 9 人, 学外講師 30 人)

平成 24 年度 7 月 23 日(火)～8 月 24 日(金) 受講者 41 人、修了者 34 人  
(学内講師 12 人, 学外講師 30 人)

#### ・評価

1977（昭和 52）年に第 1 回目の講習を実施してから今年度で 36 回となる。この間に輩出した社会教育主事有資格者は、3,099 人である。彼らは富山、石川、福井、岐阜の県及び市町村の社会教育行政や公民館事業の推進に大きな役割を果たしていると言えることができる。教育行政をつかさどる教育委員会におかれる社会教育主事は、法律上、指導主事と並ぶ専門的教育職員である。

従来、各県は、教員身分を有したまま社会教育主事として市町村に派遣する（いわゆる、派遣社会教育主事）という制度を設けていたが、近年、その制度を廃止したため、教員の受講者が激減している。

平成 18 年改正の教育基本法に新たに生涯学習の振興、学校・家庭・地域社会の連携が規定されたことを積極的に受けとめ、地域における「学びのコーディネーター」たる社会教育主事の養成のため、講習内容のさらなる充実を図るとともに、受講者増への取り組みも強めていきたいと考える。

なお、平成 22 年度からは、本学に 2 年以上在学する学生が当講習を受講できるよう共通教育の集中講義というスタイルでも実施している。

平成 24 年度は、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を講習全体のテーマとして設定し開催した。



【社会教育主事講習の様子】

## B) 学校図書館司書教諭講習

### ・趣旨

学校図書館法（昭和 28 年法律第 185 号）第 5 条第 3 項の規定に基づき、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭を養成するため、文部科学大臣の委託を受けて実施する講習で、学校図書館司書教諭講習規程（昭和 29 年文部省令第 21 号）に従って行われる。

### ・実施状況

平成 23 年度 8 月 17 日(水)～8 月 26 日(金) 受講者 41 人（うち修了者 9 人）  
2 科目(読書と豊かな人間性、情報メディアの活用)  
平成 24 年度 8 月 6 日(月)～8 月 22 日(水) 受講者 42 人（うち修了者 7 人）  
2 科目(学校経営と学校図書館、学校図書館メディアの構成)

### ・評価

資格取得に必要な 5 科目 10 単位を修得する講習であり、学校における子どもの「読書離れ」解消への取り組みの中核的な役割を担う力を育てるとともに、教員をめざす学生の資格取得の機会となっている。

なお、平成 22 年度からは、本学に 2 年以上在学する学生が当講習を受講できるよう共通教育の集中講義というスタイルでも実施している。

しかし、講師となる人材が石川県近辺におらず、また、全国的に講習の実施時期が現職の教員が受講しやすい夏期に集中するため、講師の確保に苦慮しているのが現状である。



【学校図書館司書教諭講習の様子】

C) その他

① 北陸4大学連携まちなかセミナー(金沢会場)の開催

・趣旨

北陸3県の4国立大学法人が連携して、それぞれ設定したテーマに基づいて、各大学の教員が講師又はコーディネーターとなって講義、討議等を行い、地域の方に学びの機会を提供する。

・実施状況(金沢会場)

平成23年度 11月26日(土) テマ:子どもの学力を考える 42人

コーディネーター 松原道男(人間社会研究域学校教育系教授)

平成24年度 11月17日(土) テマ:毎日の暮らしの中で健康を創ろう 21人

コーディネーター 大竹茂樹(医薬保健研究域保健学系教授)

他会場(金沢大学関係講師)

|     |  |
|-----|--|
| H23 | 富山会場テーマ:北陸の美術 講師:佐々木花江(埋蔵文化財調査センター准教授)<br>金沢会場テーマ:地域を元気にする発想<br>講師:中村浩二(学長補佐,環日本海域環境研究センター教授)<br>福井会場テーマ:自閉症スペクトラム障害の新しい治療への挑戦<br>講師:棟居俊夫(子どものこころ発達研究センター特任教授) |
| H24 | 富山会場テーマ:放射線を知る-正しく恐れ,賢く使うために 講師:絹谷正剛(医薬保健研究域教授)<br>金沢会場テーマ:長寿を目指す健康づくり 講師:稲垣美智子(医薬保健研究域教授)<br>福井会場テーマ:快適な睡眠と音楽のある暮らし 講師:篠原秀雄(人間社会研究域教授)                        |

・評価

北陸3県の国立大学が連携協力しながら平成15年度から実施しているまちなかセミナーは、平成24年度の実施で第10回目となった。北陸の地から、北陸地区の国立大学の専門的な「知」を発信するという試みは、大学間の連携協力を促進するとともに、高度化・多様化する地域の方々の学習ニーズに応える機会となっている。設定されたテーマによっては、参加者数に違いはあるが、テーマや実施形態を検討しながらさらなる内容の充実を図りたい。



【北陸4大学連携まちなかセミナーの様子】

② 市町生涯学習・社会教育担当者等研修の開催 【振興会と県等との連携】

・趣旨

県内の市・町及び社会教育施設等の生涯学習・社会教育担当職員等を対象に地域と行政のかかわりの現状と課題を見つめ、これからの生涯学習による地域社会づくりの推進に必要な職員としての資質の向上を図る。

・実施状況

平成 23 年度 7 月 6 日(水) 市町行政・公民館職員 89 人参加  
テーマ 社会教育現場で働くということ  
基調講演、研究協議「リアル熟議 in 金沢」

平成 24 年度 7 月 4 日(水) 市町行政・公民館職員 35 人参加  
テーマ 学びによる絆づくりと社会教育職員の働き  
基調講演、リアル熟議

・評価

県内の社会教育・生涯学習事業に係わる職員対象の事業で、講演、研究協議「熟議」という形式で実施してきている。講演で社会教育・生涯学習の全国的な状況を把握し、研究協議ではそれぞれの取り組みについて情報交換や事業の企画を協働で行ったりし、全体としては、地域における「学びのコーディネーター」としての職員の資質向上及び「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」に向け、社会教育事業や生涯学習の振興事業の在り方を考える契機になっているものと思われる。

③ 生涯学習振興に係るフォーラム等の開催 【振興会と県等との連携】

・趣旨

県内の社会教育・学校教育等の行政、教員、民間、NPO等の関係者が集い、一定のテーマに基づいて、実践を交流し、課題と展望を共有し併せて取り組みの意義を確認しあう場として実施し、もって「石川県教育振興基本計画」がめざす生涯学習社会の実現に向けた石川らしいふるさとづくり、人づくりのさらなる推進を図る機会とする。

・実施状況

平成 23 年度 1 月 26 日(木) 市町行政・公民館職員、教員等 137 人参加  
テーマ 震災を契機に考える絆づくり  
ー 私たちにできるボランティア活動ー

平成 24 年度 1 月 29 日(火) 市町行政職員及び教員等 130 人参加  
テーマ 青少年の問題行動とどう向き合うか  
ー 学校や地域の役割ー

・評価

行政や公民館等の職員及び県立学校の教員が主な参加者であるため、近年はボランティア活動や学校と地域社会との連携に関するテーマを設定している。このテーマに沿った事例を地域の側、学校の側から発表するという形式であるが、小・中学校と比べて地域とのつながりが必ずしも深くない県立学校にとっても、意義あるものとなるフォーラムの在り方を今後とも検討していくとともに、地域と学校の連携が生み出す教育力は大きい、参加者の思いや考えがもっと出る工夫があると良い、などという参加者アンケートの声にも応えられるような企画となるよう努めたい。

④教育事務所管内別 生涯学習研究会の開催 [振興会と県等との連携]

・趣旨

県内の 4 教育事務所管内の市・町の社会教育・生涯学習担当者が、担当する事業や取組上の課題を協議し合うとともに、ネットワーク化を図る契機として実施する。

・実施状況

平成 23 年度

|            |               |       |
|------------|---------------|-------|
| 金沢教育事務所管内  | 8月25日(木)      | 35人参加 |
| 小松教育事務所管内  | 10月18日(火)     | 37人参加 |
| 中能登教育事務所管内 | 11月16日(水)     | 54人参加 |
| 奥能登教育事務所管内 | 平成23年2月22日(水) | 62人参加 |

平成 24 年度

|            |               |       |
|------------|---------------|-------|
| 小松教育事務所管内  | 10月9日(火)      | 25人参加 |
| 中能登教育事務所管内 | 11月8日(木)      | 29人参加 |
| 金沢教育事務所管内  | 11月22日(木)     | 38人参加 |
| 奥能登教育事務所管内 | 平成25年2月20日(水) | 48人参加 |

・評価

団塊の世代と公民館活動、社会教育実践の共有・継承、ファシリテーターとしての基礎的スキル、HP やツイッター等による情報発信、職員に期待されるコミュニケーション力、実践的なコーディネート力の形成などをテーマに設定しそれぞれの管内の関係者が一堂に会して研修を実施している。

それぞれの自治体や公民館で行っている事業について情報交換するとともに、横の連携を図る上で効果的な事業になっていると思われる。

⑤ 東京都中央区との連携による講座の開催 [考古学の世界、世界の考古学]

・趣旨

金沢大学は、平成 21 年 8 月に日本橋室町に東京事務所を開設したことを機に、中央区の区民カレッジの連携講座として、地域連携推進センターが講師の調整、講座運営を担当した。

・実施状況

<平成 23 年度>

「金澤入門 ～文化と自然～」

| 開催日時      | テーマ              | 講師                          |
|-----------|------------------|-----------------------------|
| 9/10 (土)  | 金沢の自然と風土         | 環日本海域環境研究センター<br>教授 塚脇 真二   |
| 9/24 (土)  | 金沢の風土とことば        | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>教授 加藤 和夫 |
| 10/8 (土)  | 城下町金沢            | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>教授 中野 節子 |
| 10/22 (土) | 金澤町屋の保存・再生とまちづくり | 理工学研究域環境デザイン学系<br>講師 小林 史彦  |
| 11/5 (土)  | 金澤の能楽            | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>教授 西村 聡  |

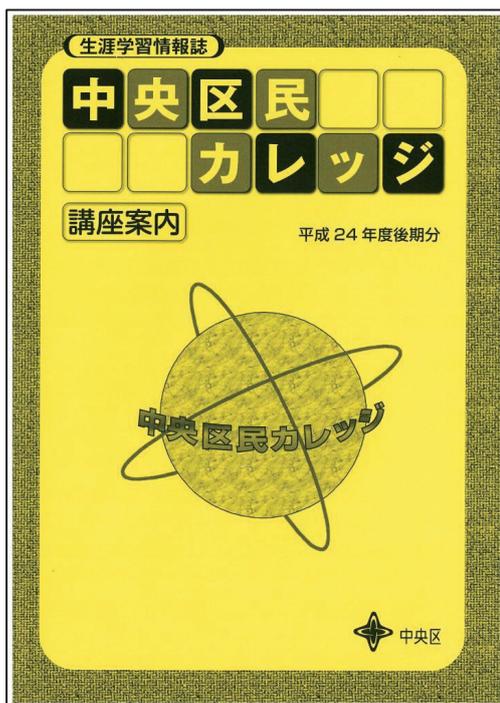
<平成 24 年度>

「考古学の世界、世界の考古学」

| 開催日時      | テーマ                              | 講師                           |
|-----------|----------------------------------|------------------------------|
| 9/29 (土)  | 熱帯に栄えた古代都市群<br>～マヤ文明の実像と研究の最前線～  | 国際文化資源学研究センター<br>教授 中村 誠一    |
| 10/6 (土)  | ユーラシア草原地帯における初期遊牧民<br>の始まり       | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>教授 高濱 秀   |
| 10/13 (土) | ヒツジ遊牧の起源<br>～シリア・ヨルダンの遺跡調査～      | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>教授 藤井 純夫  |
| 10/20 (土) | 古代イラン文明の秘宝<br>～新発見キアルマーキャツラ洞窟の謎～ | 人間社会研究域歴史言語文化学系<br>准教授 足立 拓朗 |
| 10/27 (土) | 河姆渡と良渚<br>～稲作文化の原像と中国文明の起源～      | 理事(教育担当)<br>中村 慎一            |

・評価

募集は 60 名としたが、受講者は平成 23 年度が 41 名、平成 24 年度が 79 名となった。5 回を通算すると、出席者は平成 23 年度が延べ 154 名、平成 24 年度は延べ 238 名となった。毎回、専門に応じて講師を換えて実施した。両年度とも、講座終了時には数名の受講者から継続開催について要望もあり、内容について一定の評価ができる。また、平成 24 年度は、講義の最初の 3 分間で金沢大学の歴史や活動をトピックとして映像とともに伝えたことにより、大学の知名度の向上についても効果があったと評価できる。



連携講座 ③-5 【金沢大学】 一般募集 60名

### ◆考古学の世界～世界の考古学～

【主催】 金沢大学国際文化史学研究所センターは平成23年2月に人間社会研究域に設置された新しい研究組織です。有形・無形の「文化遺産」に関する総合的・多角的な研究と保護・活用の開発を進めています。なかでも考古学研究はセンター事業の大きな柱となっており、教員・研究員を合わせて10名もの研究者がその研究に従事し、世界各地の遺跡の調査を展開しています。

本講座では、そのうち5名の教員が世界各地におけるフィールドワークの成果を数多くの写真をもちてわかりやすく解説するとともに、現在の考古学研究の最新手法について触れることで、考古学がどのようにして先史・古代の実像を明らかにしていくのかについても紹介していきます。

【講座番号】 ③-5

【時間】 午後2時～3時30分

【場所】 隣地社会教育会館

【回数】 5回

【受講料】 1,500円

【定員】 60名

| 回数  | 日程        | 講義内容                         | 講師名   |
|-----|-----------|------------------------------|-------|
| 第1回 | 9/29 (土)  | 熟帯に栄えた古代都市群～マヤ文明の興隆と研究の最新情報～ | 中村 誠一 |
| 第2回 | 10/ 6 (土) | ユーラシア草原地帯における初期遊牧民の始まり       | 高濱 秀  |
| 第3回 | 10/13 (土) | ヒツジ遊牧の起源～シリア・ヨルダンの遺跡調査～      | 藤井 純夫 |
| 第4回 | 10/20 (土) | 古代イラン文明の極東～新発見キルメーキヤラ洞窟の謎～   | 足立 拓朗 |
| 第5回 | 10/27 (土) | 河姆渡と後漢～稲作文化の想像と中国文明の起源～      | 中村 慎一 |

【講師紹介】

**中村 誠一** (なかむら せいち) 金沢大学人間社会研究域国際文化史学研究所センター教員。学芸大学及びリベラル系高等学院、その地域の世界遺産で数多くの考古学プロジェクトを指揮し、3000年前メソポタミア文明の「玉環」を発見、古兵器マヤ王墓の発掘を研究課題としている。

**高濱 秀** (たかはま しょう) 金沢大学人間社会研究域国際文化史学系教授。文学博士。金沢大学大学院人文科学研究科考古学専攻主任。中央ユーラシアの青銅器文化や初期遊牧民文化などを主な研究課題としている。

**藤井 純夫** (ふじい じゅん) 金沢大学人間社会研究域国際文化史学系准教授。博士(文学)。金沢大学大学院人文科学研究科考古学専攻主任。イスラエル・ヨルダン国境の考古学プロジェクトを指揮し、3000年前メソポタミア文明の「玉環」を発見、古兵器マヤ王墓の発掘を研究課題としている。

**足立 拓朗** (あだち たくろう) 金沢大学人間社会研究域国際文化史学系准教授。博士(文学)。金沢大学大学院人文科学研究科考古学専攻主任。イスラエル・ヨルダン国境の考古学プロジェクトを指揮し、3000年前メソポタミア文明の「玉環」を発見、古兵器マヤ王墓の発掘を研究課題としている。

**中村 慎一** (なかむら しんいち) 金沢大学理事(教育担当)。教育学。博士(文学)。東京大学大学院人文科学研究科考古学専攻修了。アジア稲作の起源と進化、長江流域を中心とする中晩新石器文化、古代文明の比較考古学を主な研究課題としている。

【中央区民カレッジのパンフレット（平成24年度後期分）】

⑥ 北國新聞社との連携による公開講座の開催

・趣旨

平成18年3月23日、国立大学法人金沢大学と株式会社北國新聞社との間で締結された「金沢大学と北國新聞社による『金沢学』推進事業実施にかかる覚書」に基づいて、市民対象の公開講座「地域学としての金沢学」を実施する。

・実施状況

平成23年度 テーマ 偉人に学ぶー加賀の知性の系譜 全11回  
 実施期間 平成23年4月16日(土)～平成24年3月3日(土)

平成24年度 テーマ モダン金沢から現代へ 全11回  
 実施期間 平成24年4月21日(土)～平成25年3月9日(土)

・評価

金沢大学と北國新聞社とが連携して行う市民公開講座「金沢学」は、地域における学術文化の活性化及び発展に寄与することを目的としたもので、講座の企画は、北國新聞社が主体的に行っている。

大学側は、講師の人選において金沢大学教員の推薦、日程調整、開講時のあいさつ等であり、今後とも現状のような関わり合いで構わないかについて検討しても良いのではないかとと思われる。

⑦ 読売新聞との連携による講座の開設 [金沢大学の研究現場に見る“再生”への道]

・趣旨

金沢大学地域連携推進センターは、読売新聞東京本社北陸支社と連携し、平成 24 年度に初めて公開市民講座「金沢大学の研究現場に見る“再生”への道」を開設した。今回は、工業化やエネルギーの大量消費の人類の歴史を振り返り、金沢大学の研究を通して、エネルギー、環境、地域経済の再生への道を見出そうとするものである。

・実施状況

| 開催日時     | テーマ  | 講師                          |
|----------|--|-----------------------------|
| 7/ 1 (日) | 大気中で塗って製造できる有機薄膜太陽電池の開発<br>～野外での実証実験が遂に始まった～ | 理工研究域物質科学系<br>教授 高橋 光信      |
| 7/14 (土) | 地域経済の再生に向けて<br>～工業化から文化的投資へ～                 | 人間社会研究域経済学経営学系<br>准教授 佐無田 光 |
| 7/21 (土) | 能登半島の環境維持と再生<br>～河川水系の変化～                    | 環日本海域環境研究センター<br>教授 長尾 誠也   |
|          | ～大気の変化～                                      | 環日本海域環境研究センター<br>准教授 松木 篤   |
| 7/28 (土) | 里山里海と地域再生<br>～金沢大学の取り組み～                     | 環日本海域環境研究センター<br>教授 中村 浩二   |

・評価

募集定員は 120 名としたが、読売新聞紙上による事前広報等の効果もあり、最終的には 205 名の登録となった。ただし、当日欠席等もあり、4 回の講座に延べ 388 名が出席した。開催にあたり読売新聞には、講座開設の記事、各回の直前に開催の予告、開催日の翌日に実施の記事、さらに毎回の講演を記録し、その内容を詳報として後日大きく取り上げてもらった。こうしたことから、聴講者に対しては会場で金沢大学がどのような研究をしているのかを知らしめるとともに、新聞紙上を通じても金沢大学、研究者及び研究内容を広く市民に広報できたと考えられる。

今回は、読売新聞との共催であり、記事掲載は新聞社が進んで行ってくれたが、詳報の充てられた紙面を広報活動として大学が購入した場合、聞き込みによると 1 回あたり 200 万円の経費が必要である。また、テレビによる事前広報も行ってもらい、大学が独自に PR すれば、総額 1,000 万円以上を支払う必要があり、大きな広報効果を得たこととなる。

読売新聞との協議により、平成 25 年度にも引き続き第 2 回の講座を開設することとしている。



【読売新聞との連携による講座の様子】

### 3.地域連携部門事業

#### 3-1 学生による地域連携事業

地域連携に関する事業に関し、地域からは学生の地域参画に対するニーズが高まっている。自治体等の団体が企画した事業に学生ボランティアを募集して参画する事例は多いが、当該事業の内容について、教育的配慮のあるものは少ない。

地域連携を通じた学生への教育的課題として、地域の抱えている問題を理解し、行動に移す能力を養い、将来的に地域の発展に貢献できる学生の育成も重要であると考えます。

今回、まずは学生の自主性を尊重し、主体的に地域住民と連携して地域課題の解決に向けて活動できる事業について、センターの重点事項として実施した。

#### A) 能登の祭り支援プロジェクト

##### ・趣旨

奥能登地域の伝統文化であるキリコ祭りのワークショップや体験プログラムの開発を通して、祭りの支援が必要な集落へ、祭り体験を教育の場や研究として活用したい全国の大学の教員・研究者と学生・留学生がエントリーできるような仕組みづくりと、自治体や専門家による連携と情報共有のためのネットワーク構築に取り組み、学生や若者が能登半島の地域活動に参加するチャンスが広げながら、能登の地域活性化と文化継承を目指す。

平成 23 年度は、トヨタ財団から 224 万円の支援を受け、ホームページ及びパンフレット作成による情報提供、地域の祭り文化を伝承する NPO 等が参加するワークショップ等を実施し、まずは学生に能登の祭りを紹介し、理解を深めるための施策を実施した。平成 24 年度は、その資産を基に、センターの事業費等を効率的に活用するなど学内のリソースを活用して実施した。

##### ・実施状況

平成 23 年度（参加人数 教職員 22 人 学生 78 人）

- (1) 7/9（土）ワークショップ祭りで学ぼう（角間の里）
- (2) 7/31（日）、8/1（月）名舟大祭（輪島市名舟）
- (3) 8/14（日）、15（月）新宮納涼祭（七尾市中島町鉦打くなたうち地区）
- (4) 8/17（水）、18（木）天領祭（輪島市門前町黒島）
- (5) 9/18（日）、19（月）深見キリコ祭り（輪島市深見町）
- (6) 9/22（木）、23（金）杵旗祭り（七尾市中島町鉦打地区）
- (7) 9/22（木）、23（金）奈古司くなくし神社秋祭り（穴水町岩車地区）

平成 24 年度（参加人数 教職員 7 人 学生 56 人）

- (1) 7/31（火）、8/1（水）名舟大祭（輪島市名舟地区）
- (2) 8/4（土）、5（日）石崎奉燈祭（七尾市石崎）
- (3) 8/14（火）、15（水）新宮納涼祭（七尾市中島町鉦打くなたうち地区）
- (4) 8/17（水）、18（木）天領祭（輪島市門前町黒島）
- (5) 9/22（土・祝）、23（日）杵旗祭り（七尾市中島町鉦打地区）
- (6) 9/22（土・祝）、23（日）奈古司くなくし神社秋祭り（穴水町岩車地区）

##### ・評価

金沢大学の取組みとして、祭り支援の認知が高まり、祭りの担い手不足や地域継承の危機という共通の課題に悩む受入れ地域や自治体、有識者のつながりが構築され、大学を中心とした情報、人脈のネットワークを構築することができた。

例えば、ワークショップや運営委員会の開催を通じて、地域の関係者に協力・助言をもらう体制ができたことで、地域の課題や認識を共有することができた。

またそれまで学内の教員やグループが個別に実施していたいくつかの祭り支援を「祭り支援プロジェクト」として統一し、学内に事務局を置いたことで、情報の集約、学生の利便性が図られ、学生（留学生含む。）及び教職員の認知が高まり、情報や協力を得るための基盤を作ることができた。

地域への波及効果としては、観光化された祭りとは対照的に人手不足で悩む集落の人だけで実施する祭りに関して、学生が実施の主力メンバーとして活動したことにより、伝統文化を継承する祭りを実施できたことがある。

学生への教育的効果としては、学生が地域に出て、住民との直接的な交流と貢献活動を通じ、地域住民から大変感謝されたことである。そうした学生の成功体験は今後の学生活動の活性化に繋がる。

課題としては、単発的な活動にとどまらず、学生の伝統文化に関する深い理解と自主的な活動に繋がるように運営する必要がある。



【能登の祭り支援プロジェクト 祭り参加の様子】



【能登の祭り支援プロジェクト 地域住民と学生との懇親会の様子】

## B) まちなか活性化プロジェクト

### ・趣旨

金沢大学が城内から、角間に移転して四半世紀ちかく経過し、金沢の中心街において学生活動を目にする機会が減るとともに、学生のまちなかへの愛着も失われつつある。まちなかでは若者が減少し店主は活性化に苦慮している。学生と商店街が協働し、まちなかの商店街を舞台に、学生がまちなかの魅力を再発見できる機会を考え、提供し、学生自身地域の魅力を市民に発信することで、人口減少下の地方都市で、地域市民と学生が地域活性化をキーワードにした新しいまちなかでの「祭り」の在り方を提案し学生による地域活性化を実践する。

### ・実施状況

平成 23 年度

(1) かなざわひがし竹灯り（金沢市東茶屋街）500 人

(2) 金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ（金沢市堅町商店街）500 人

平成 24 年度

(1) 横安江町子ども竹灯り（金沢市横安江町商店街）500 人

(2) 金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ（金沢市堅町商店街）500 人

### ・評価

竹灯りの事業については、平成 23 年度は東茶屋街、平成 24 年度は横安江町商店街と、馬場小学校、明成小学校と協働して実施した。

実施に際しては、地域住民の意見やニーズを十分に把握したうえで、環境教育の一環として、角間キャンパスの里山ゾーンの保全活動で出た竹を活用し竹灯りの材料を小学校に提供するなど、学生の教育に配慮しながら大学のリソースを活用した質の高い地域連携を実施できたと考える。

ストリートキャンパス事業については、学生の自主性を尊重し、学生主体により企画した地域活性化の内容を地域にプレゼンし、事業を実施するスタイルをとっている。また石川県酒蔵組合連合会とも連携して、日本酒離れする若年層に地酒をアピールするため、野外に日本酒 BAR を設置するなど、学生が地域の魅力を分析し、学生が地域に提供できるパフォーマンスを選別して実施することにより、地域から継続的实施を求められるなど、高い評価を得た。

課題としては、次年度以降も、継続的に実施するため、後輩となる学生へのノウハウの継承など、事業ごとに学生を組織化して実施する必要がある。



【まちなか活性化プロジェクトの様子】

## C) 地域交流プロジェクト

### ① 輪島の「間垣」保全プロジェクト

#### ・趣旨

能登の里山里海景観の主要な要素であり、過疎高齢化によって存続が危ぶまれる輪島の「間垣」について、間垣を有する集落（輪島市上大沢地区、大沢地区）と学生との交流を通じて、間垣の補修支援活動を行うとともに、持続的な交流のしくみの構築を目指す。

#### ・実施状況

能登キャンパスゼミナール事業等を活用し、地元の住民団体である間垣保存会、輪島市文化課等と連携し、学生の参加による間垣補修支援を通じた地域交流活動を実施。

<平成 23 年度>

○上大沢地区：間垣補修の集落共同作業への参加体験

○大沢地区：間垣の素材である「ニガタケ」の伐採作業、間垣補修支援作業

<平成 24 年度>

○大沢地区：「ニガタケ」伐採作業およびニガタケ生息環境整備の試行

留学生等を含む、「間垣補修体験ツアー」の試行による間垣補修支援作業と地域住民との交流事業の実施

#### ・評価

平成 23 年度より試行的にはじまった取り組みであるが、補修活動のノウハウも徐々に蓄積されつつある。とくに、大沢地区では過疎高齢化によって間垣補修の人手不足は深刻な状況にあることから、学生による支援活動はとても好評である。能登の里山里海景観を地域の方々とともに学生が守る活動として、マスコミ関係からも注目されており、地方紙だけでなく全国紙にも、その活動は紹介された。

平成 24 年度は間垣補修活動だけでなく、地域の方々との交流や能登の地域資源を巡るスタディ・ツアーとして組み立て、全学的に参加者を呼び掛けたところ、留学生をはじめ多くの学生が参加した。地域の方々はもとより、参加学生にも好評な体験事業となったが、学生の組織化、金沢ー輪島間の移動手段の確保など、持続的な活動手法の構築が課題である。



【間垣保全プロジェクトの様子】

## ②こまつ里山・里川プロジェクト

### ・趣旨

地方自治体の推進する施策を大学、地域住民、NPO、行政など多様な主体の協働で実施することにより、地域の活性化を図るとともに、大学と地域が実践的に連携したプロジェクトの創出や学生の社会参加を促進する。

### ・実施状況

平成23年度より包括連携協定を締結した小松市が推進する「こまつ里山、里川、里湖・海事業」と連携した事業を、政府の推進する新しい公共支援事業の一環である石川県・地域連携促進事業を活用して、大学（学生）と地域の市民活動団体、小松市等との協働による「こまつ里山・里川プロジェクト」を立ち上げ、その拡大と持続的な展開に努めている。

<平成23年度>

こまつ里山プロジェクトとして、里山エリアの一つである東山集落を対象に、地域の方々とともに学生参加による地域資源マップづくり活動を実施。

<平成24年度>

こまつ里川プロジェクトとして、里川エリアの一つである木場湯・前川エリアにおいて、こまつ水郷2020 ネットと連携し、一般市民を対象とした前川乗船体験事業やスタディ・ツアーの企画運営を行った。

### ・評価

平成23年度は、農村集落をフィールドにした学生プロジェクトのきっかけとして、地域資源マップづくりを行ったが、地域の方々からの評価は高く、これをもとにした持続的な交流活動への発展が期待されている。また、平成24年度に実施した水環境を活用した事業についても、地域の多様な主体が具体的に連携できる事業としての期待が大きく、今後の継続が期待されている。他のプロジェクトと同様、これらの事業を持続的に展開するための学生の組織化、資金の確保等が今後の課題である。



【こまつ里山・里川プロジェクトの様子】

## D) 学生チャレンジ事業

平成24年7月に「学生チャレンジ」を題して、学生から公募型の事業を実施した。これは、学生が、キャンパス又は地域をフィールドに、学生らしいアイデアにより、地域を活性化する事業について学生から募集し、学生の地域貢献について、関心を高めることを狙いとしたものである。応募できる事業の基準を、①まちづくりを推進する事業であること。②内容について実現性があること。③学生及び地域住民の観点から、有益性があること。④平成24年度内に実施する事業であること。⑤金沢大学の学生（学年不問、サークルでも任意グループでも可）であることとして、1チーム10万円、3チームまでを上限とした。募集期間は11日間と大変短い期間だったにもかかわらず、13件の応募があった。

審査方法については、地域連携推進センター教員により厳正に採点し、上位3チームの事業を採択した。1位は、「地域と学生による新しい祭りを通じた地域活性化事業」、2位は「被災地から地域防災を考える～金沢と陸前高田を繋ぐしくみ～」、3位は「能登祭り参加ツアー」となった。

1位として採択された学生提案事業は、地域連携推進センターにおけるまちなか活性化プロジェクトの位置づけにより「金沢大学ストリートキャンパス in タマチ」として実施された。

### ・評価

学生らしいアイデアによる地域貢献事業を応援する趣旨で急遽実施したが、募集期間が短いことから、学生からの提案内容の質については、かなりのばらつきがあった。しかし、11日間で13件の応募数があったという事実は、学生が何かの事業を通じて地域貢献したいという潜在的なニーズがあることを示している。

今後、学生のチャレンジ精神を伸ばすには、予算的な事業支援だけでなく、地域貢献に感度の高い学生、やる気の高い学生をどのように選抜・支援し、やる気を伸ばしていくかが課題である。また、地域貢献に興味はあるが足踏みしている学生が潜在的に多数いるので、地域貢献事業について組織化し情報を共有化して、二の足を踏む学生の背中を押す仕組みが必要である。

**学生  
チャレンジ  
募集**

**地域連携推進センター「学生チャレンジ」事業募集**

**1. 事業の目的**  
金沢大学の学生が、キャンパス又は地域をフィールドに、学生らしいアイデアにより、地域を活性化する事業について募集します。  
地域連携推進センターは、事業の実施を前提とした地域貢献事業について、優秀と認められた事業に助成して、学生による地域連携事業を応援します。

**2. 応募できる事業の基準**

1. まちづくりを推進する事業であること。
2. 内容について実現性があること。
3. 学生及び地域住民の観点から、有益性があること。
4. 平成24年度内に実施する事業であること。
5. 金沢大学の学生(学年不問、サークルでも任意グループでも可)であること。

**3. 助成金額等**  
助成額は1チーム10万円、採択数は3チームを上限とします。

**4. 応募方法**

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 応募用紙 | 別紙応募用紙を提出のこと                          |
| 応募期間 | 平成24年7月9日(月)～平成24年7月20日(金)            |
| 提出先  | 金沢大学 地域連携推進センター(地域連携部門)               |
|      | メールアドレス chrenkei@adm.kanazawa-u.ac.jp |

【学生チャレンジ事業 ホームページによる募集案内】

#### E) 金沢大学放送局 (web-KURS)

平成 17 年に、学生のインターンシップによる、大学の社会教育の一環として、社会貢献室に、金沢大学放送局「web-KURS ウェブクラス」が設置された。現在は金沢大学地域連携推進センターにおいて、学生が実施する地域貢献を実施するプロジェクト組織として、教職員に指導を受けながら、事業を実施している。

ルーティン業務として、学内外の有益な取り組みを取材し、音声コンテンツによる学内放送を週に 1 回のペースで学内に情報提供することにより、学生の地域連携への興味喚起はもとより、学生自身の取材力、放送技術等の向上に努めている。また、他の地域連携プロジェクトの記録映像やシンポジウム、学位記授与式等の学内行事におけるインターネットを利用した生中継にも積極的に技術協力し、大学の運営面についても貢献した。

また、平成 23 年 10 月 16 日、まちなか活性化プロジェクトとして、「ストリートキャンパス in タテマチ」の企画・運営に主体的に取り組み、学生間の連絡調整や地域住民との調整等を行い、地域から高い評価を得た。

平成 24 年度には、大学コンソーシアム石川・地域課題研究ゼミナール「能美にいこう！～学生の能美の魅力発見隊による情報コンテンツの製作～地域魅力の再発見と若年層への効率的情報発信模索のためのフィールドワーク～」に中心的なメンバーとしてスタッフが参加し、包括連携協定を締結している能美市の協力を得て、地域の魅力を調査し、若年層に伝えるコンテンツを製作した。

#### ・評価

設立当初は、学内放送における情報提供に留まっていたが、平成 23 年度から、学生の自主的な企画によるユニークな企画を立案し組織的に実施した。放送・メディア番組の製作力を証明するものとして、NHK ラジオ第一が全国の学生に公募し公開生放送でグランプリを決める「ラジオをプロデュース！～若者が聞きたいラジオはこれだ！」において、ウェブクラスの作品「時の旅人」が最優秀賞を受賞し、平成 23 年 5 月 22 日午後 8 時から NHK ラジオ第一にて全国放送された。また、大学の入学式や学位記授与式で、ウェブによる生放送を担当するなど、学内外に技術力が高く評価された。平成 24 年度は、学生コンテストへのエントリーとして、NHK コンテストへの決勝進出、地域貢献活動として、まちなかプロジェクトへの参加、里山里海プロジェクトへの参加、石川県の助成を受けた能美市の PR 動画コンテンツの製作など、メディアを活用した学生の視点による地域連携事業を実施することができた。



【ウェブクラスによるまちなか活性化プロジェクトの様子】

F) 社会貢献のための学生ネットワークの構築

学生チャレンジ事業の採択学生グループによる報告会及び地域貢献に感度の高い学生に参加を呼びかけ、学生グループによる活動報告を実施し、それぞれのグループの活動報告及び情報交換の場を作った。その中で学生の中でお互いの活動について情報交換を図るだけでなく、学生による地域貢献活動についてゆるやかなネットワーク（KUSAT）を構築して、学生の地域連携活動を支援する体制を構築した。

・実施状況

「地域貢献学生プロジェクト 事業実施報告会&情報交換会」

日時：平成 25 年 2 月 15 日（金）

場所：地域連携推進センター 2階 講義室

（スケジュール）

15：00 開会挨拶 神谷浩夫 地域連携推進センター長

15：10 学生チャレンジ事業 報告発表（1グループ10分）

- 1.地域と学生による新しい「祭り」を通じた地域活性化
- 2.被災地から地域防災を考える～金沢と陸前高田を繋ぐしくみ～
- 3.能登祭り参加ツアー

15：40 その他学生グループの活動報告発表（1グループ10分）

- 1.サークルSの活動（サークルS）
- 2.法律相談所の活動（金沢大学法律相談所）

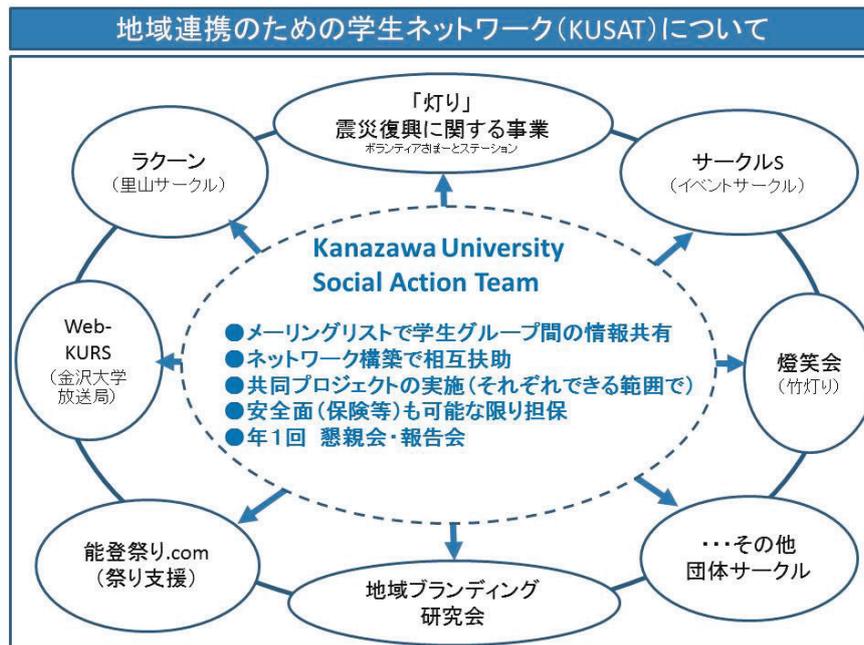
16：10 地域連携のためのネットワーク（KUSAT）について 松下重雄准教授

16：20 情報交換会

（簡単な食事、飲料も用意。自由闊達に意見交換）

・評価

学生が自主的に取り組む地域貢献活動について、各学生プロジェクトのミッションを尊重しながら、相互の情報交換の場を提供し、教育的に配慮したネットワークを構築することは学生の地域への参画への自律性と継続性に配慮した取り組みであると評価できる。



【KUSAT 概念図】

### 3-2 里山里海を活用した地域連携事業

#### A) 能登「里山マイスター」養成プログラム

・名称 地域再生人材創出拠点の形成 「能登里山マイスター」養成プログラム

・期間 平成 19 年 7 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

・資金 文部科学省 科学技術振興調整費

#### ・内容

能登半島の珠洲市において「能登学舎」を開設し、生態学を基礎とした環境保全型農業を 2 年間学び、実践することを通して、一次製品の生産のみならず、二次（加工）、三次（サービス）の付加価値をつける事業センスを有する人材、さらに、能登半島の優れた自然や里山里海の景観、文化資源を環境ブランドとしてグリーンツーリズムに展開できる人材を養成する。受講者として、チャレンジ組（再チャレンジやUターン者）と地域担い手組（農林業後継者、自治体やJA職員）を中心とする若手人材を募集する。金沢大学は修了者に「里山マイスター」の称号を与え、共同研究や情報提供を通じてフォローする。また、受講資格を満たさないもの（年齢制限を越える者）であっても、「特別聴講生」として広く門戸を開き、リカレント教育を実践する。修了生は 1 期 15 名程度とし、5 年間で 60 名以上を目標とした。

#### ・評価

5 年間の事業で、60 名のマイスター修了生の目標に対して、平成 24 年 3 月のプログラム終了時には、62 名のマイスター修了生を輩出した。また平成 21 年度の中間評価では A（最高位）を獲得していたが、プログラム終了後の事後評価では、プログラムそのものの達成状況以外に、事業終了後にも当該事業の資産を生かして自治体と連携して人材養成事業を実施する取組みが総合的に評価され、評価 S（最高位）を受けた。



【「能登里山マイスター」養成プログラム 修論発表会の様子】

## B) 「能登」里山里海マイスター育成プログラム

・名称 能登ワールドチャレンジプロジェクト 能登「里山里海マイスター」育成プログラム

・期間 平成24年10月1日～平成28年3月31日

・資金 能登キャンパス構想推進協議会 受託事業

### ・内容

能登半島の輪島市、珠洲市、穴水町、能登町を拠点に、「里山里海の豊かな価値を評価し、地域課題に取り組むマインドを持った人材」「自然と共生する持続可能な能登の社会モデルを世界に発信する人材」を養成するために、1年間の講習で、20名ずつ、3年間で60名の地域リーダーを養成する事業を開始した。

第1期生は、定員20名のところ、40名が受講生として入講し、隔週土曜日の9:00から16:00の間に講義を実施した。

### ・評価

能登里山マイスター養成プログラムの成果を活かしながら、これからも持続的に地域再生の人材を養成するため、大学と地域が費用を拠出して、新しい枠組みで人材養成プログラムを企画、立案及び実施した。また、初年度受講者定員20名のところ、地元以外の人間も含め2倍の40名が入講したことは、このプログラムの内容が高い評価と期待を受けると同時に、地域ニーズに合致していると評価できる。

## CONCEPT

プログラムでは、次の2点をポイントに人材育成を進めます

- ① 里山里海の豊かな価値を評価し、地域課題に取り組むマインドを持った人材の育成
- ② 自然と共生する持続可能な能登の社会モデルを世界に発信する人材の育成

### 人材育成の概要

自ら学ぶ意欲を持ち、持続可能な地域社会の形成を目指す45歳以下の次世代リーダーが対象

能登に定住し、自然や文化を学びたい

能登の豊かな自然・文化を守り育てる生活を美しきたい人

1年間の講習

里山里海についてより深く理解したい

金沢大学と共に里山里海を研究し、保全・活用方法を探したい人

3年間で60人育成

里山里海を仕事に活かしたい

能登の里山里海の新しい価値を発見し、事業や仕事に活かしたい人

3年間で60人育成

基礎科目 習得 実践科目

卒業課題の公開プレゼン

卒業認定

「里山里海マイスター」の称号授与

- ・多様な人との協働ネットワークから生まれる活動の広がり
- ・企画提案能力、発信力の向上で地域発展の核に
- ・里山里海を活用する知恵を持つ次世代の伝承者に

能登「里山里海マイスター」育成プログラム 1

## CURRICULUM

「学び」を地域の実践に結びつけるプログラム

|       |  |
|-------|--|
| 4つの特色 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 里山里海について学ぶ <span style="float: right;">能登の里山里海の自然と文化を総合的、科学的に学びます。</span></li> <li>2. 実践のための演習・実習 <span style="float: right;">地域資源を活用し、コミュニティビジネスや地域活動のための発想法や技術を学びます。</span></li> <li>3. グループ形式の演習(ゼミナール)で実践をサポート <span style="float: right;">グループごとにテーマを決め、問題設定、実践、コミュニケーション、プレゼンテーションなどの能力向上を図ります。</span></li> <li>4. 充実したフォローアップ体制 <span style="float: right;">「能登半島でイスタンネットワーク(08会)」, 能登の農林漁業等を学ぶ「里山マイスター支援ネット」, 金沢大学「里山農村研究員」, 大学の研究者など、独自の支援ネットワークのサポートを受けられます。</span></li> </ol> |
|-------|--|

### 多彩な講義・実習

実践的な知識・技能の修得を目指す

[カリキュラム(1年間、隔週土曜日9:00～16:00)]

| 基礎科目 (09:00～12:00)   | 実践科目(ゼミナール) (13:00～16:00)  |        |  |        |  |        |   |
|--|--|--------|--|--------|--|--------|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山里海の生態系サービス</li> <li>・能登の歴史と伝統技術</li> <li>・地域資源を活かしたブランド化戦略</li> <li>・食の産業化</li> <li>・バイオエタノールの活用</li> <li>・ニューツーリズム</li> <li>・耕作放棄地の新たな活用</li> <li>・遊休地における公共交通のあり方</li> </ul> </li> <li>2. 演習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業立地のノウハウ(ブレインストーミングから企画書作成まで)</li> <li>・GIS活用法</li> </ul> </li> <li>3. 実習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山里海の現場調査</li> <li>・農村社会・農村漁業調査</li> <li>・先端事例調査</li> </ul> </li> </ol> <p style="font-size: x-small;">※基礎科目は一部です</p> | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">Step 1</td> <td> <p>テーマの確定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ構成</li> <li>・研究テーマの確定</li> <li>・計画と役割分担</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">Step 2</td> <td> <p>調査・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・中間報告会</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">Step 3</td> <td> <p>報告書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文</li> <li>・企画書</li> <li>・活動実績報告書 等</li> </ul> </td> </tr> </table> | Step 1 | <p>テーマの確定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ構成</li> <li>・研究テーマの確定</li> <li>・計画と役割分担</li> </ul> | Step 2 | <p>調査・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・中間報告会</li> </ul> | Step 3 | <p>報告書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文</li> <li>・企画書</li> <li>・活動実績報告書 等</li> </ul> |
| Step 1   | <p>テーマの確定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ構成</li> <li>・研究テーマの確定</li> <li>・計画と役割分担</li> </ul>   |        |  |        |  |        |   |
| Step 2   | <p>調査・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・中間報告会</li> </ul>   |        |  |        |  |        |   |
| Step 3   | <p>報告書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文</li> <li>・企画書</li> <li>・活動実績報告書 等</li> </ul>  |        |  |        |  |        |   |

・基礎科目では、能登の里山里海に関する講義や、その活用に必要な技術の演習と実習を履修します。

・実践科目では、グループに分かれて学びたいテーマを決め、多角的に学んだり協働して活動を実践します。グループごとに結果を報告書としてまとめ、報告会を通じて地域に発信します。

・一部の講義は公開講座として実施します。

2 金沢大学 地域連携プロジェクト

## 【「能登里山里海マイスター」育成プログラム 募集要項】

C) 「能登半島里山里海アクティビティ」

・名称 能登半島里山里海アクティビティ

・期間 平成 21 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日

・資金 三井物産環境基金

・内容

能登と都市圏の交流は、能登の発展のためには、特に重要であり、人と人が交わることで、新たな可能性が生まれていくことから、能登半島の里山里海をテーマにして、学生や都会の若者が地域の人たちとともに保全活動や交流活動、教育研究活動を実施する。3年間で1000人の交流人口を増やし、能登の新たな可能性と地域創造を目指す。

・評価

3年間の事業により、能登の里山里海での保全活動、CSR活動、調査研究活動や地域交流活動、文化活動を拡大するために、大学、NPO、企業等からの参加者を対象に里山里海資源を活かした体験交流活動を実施した。実施に際しては、2通りの手法をとった。団体や企業、研究機関からの申し込みを受けてプログラムを開発、現地コーディネートを行うケースと、実行委員会が独自に企画して参加者を募集するケースである。その結果、体験交流活動実施回数は79回を数え、総交流人数は1269人に上った。本事業により、能登の里山里海をフィールドとする新たな活動が創出され、交流事業を担う人材や組織が活発化し、里山里海資源を活かした交流や大学の連携が広がった。



【能登半島 里山里海アクティビティでの活動紹介の様子】

D) 「能登いきものマイスター」養成講座

・名称 「能登いきものマイスター」養成講座

・期間 平成22年4月1日～平成25年3月31日

・資金 日本財団

・内容

人と自然の共生の大切さを、生物多様性を通じて学び、実践するマイスターを、年間5人ずつ養成する。この講座に参加する教員や市民は、子供たちに里山里海や生物多様性を分かりやすく教える技能を習得し、農林漁業者やエコツアーのガイドは、現場で生物多様性を守り、活用する方法を学ぶ。

・評価

平成22年度から平成24年度の3年間で豊かな自然を生かした魅力あるカリキュラムを企画実施し、18名が修了した。



【「能登いきものマイスター」修了式の様子】

## E) 里山再生学の構築

- ・名称 持続可能な地域発展をめざす「里山里海再生学」の構築  
～能登半島から世界に向けた発信～

- ・期間 平成 22 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

- ・資金 文部科学省 特別経費

### ・内容

物質循環と生物多様性の観点から、能登半島において、能登の里山・里海の歴史の変遷の解明、能登への地球温暖化や環日本海域からの越境飛来汚染物質の影響解析、里山と里海の連関（つながり具合、相互の影響）の解析などを行うとともに、臨地主義、文理融合型の研究を通じて、持続可能性や地域再生に向けた高度の知識・技能を備えた人材（大学院）や幅広い視点を有する人材（学部）を育成する。また、角間の里山ゾーンを活用して、全学的な教育カリキュラムの開発、実施により、すべての学生が持続可能・低炭素化社会に向けた知識と教養を身につけることを目指す。

### ・評価

能登地域の自然・地理・社会環境の過去から現在までの歴史の変遷と現状の把握のため、研究員を派遣し、調査を開始した。また、熊木川、若山川等の流域において、長期調査地の選定と物質循環、生物多様性の調査を実施し、能登地域の自然・地理・社会環境の過去から現在までの歴史の変遷と現状の把握と分析（農林水産統計、地形図、土地利用図等の資料・文献を入手し、リモートセンシング、GISにより統合・整理）し、広域・長期の視点の確立を目指している。

平成 24 年度に入ってから研究成果の情報発信としては、平成 24 年 5 月 4 日から 12 日にかけて、フィリピン（マニラ市及びバギオ・イフガオ棚田等）を訪問して、現地において「里山里海セッション及びシンポジウム」に出席し、日本の里山里海に関する国際的相互理解を深めるとともに、世界に情報を発信した。

また開発中の教育プログラムのフィードバックとしては、県内の学生を対象に「里山体験実習」及び「里海体験実習」として、平成 24 年 6 月 5 日から 17 日と 9 月 18 日から 20 日に集中講義を実施し、里山・里海の現状を直に触れ、歴史の変遷と現状と課題等を考える機会を提供した。



【能登における研究発表会の様子】

### 3-4 大学と地域

#### A) タウンミーティング

金沢大学では、地域との対話を通じて大学が地域に果たす役割を考え、地域のニーズを大学運営に活かすことを目的に、石川県内各地で「タウン・ミーティング」を開催している。平成14年度の輪島市を手始めに加賀市、鶴来町（現白山市）、珠洲市、能登町、羽咋市、穴水町、内灘町、能美市、七尾市、小松市、野々市市で開催された。

#### ・実施状況

小松市 平成23年12月3日（土）10:00～16:00

「世界とつながるハーモニーシティを目指して～ものづくり、多文化共生、環境再生をテーマに」と題して、こまつ芸術劇場うららにて実施した。参加者500名

野々市市 平成25年1月27日（日）10:00～16:00

「ともに創りともに育む住み続けたいまちづくり」と題して、野々市市情報交流館カメラアホール椿にて実施した。参加者150名

#### ・評価

タウンミーティングが、市民と直接意見交換できる場として活用するだけでなく、最終的には当該自治体と包括連携協定を締結するきっかけとなっている。今後は、協定内容の実質化はもちろんのこと、学生による地域参画について高い関心があることが判明しているため、学生参画による連携事業の実施について、自治体と協力して検討することが課題である。



【タウンミーティング in 小松の様子】



【タウンミーティング in 野々市市の様子】

## B) 地域連携シンポジウム

### ・趣旨

学生の地域への関与の可能性や学生と地域との交流を通じた地域活性化の可能性を探ることを目的に、具体的な地域事例を題材にシンポジウムを開催する。

平成 23 年度からは、アニメ「花咲くいろは」における「湯涌ぼんぼり祭り（金沢市）」を例にとり、コンテンツによる地域活性化の先進的方策について、学生や市民とともに考える試みを実施している。

### ・実施状況

<平成 23 年度>

#### ○シンポジウム

「コンテンツによる地域活性化～アニメーションが地域にもたらすもの」

日 時 平成 23 年 11 月 5 日（水）（参加人数 150 名）

場 所 金沢大学人間社会第一講義棟 101 講義室

第一部 基調講演

「アニメ・コンテンツと地域活性化」

ピーエーワークス 専務取締役 菊池宣広

第二部 パネル討論

「地域のために、どうアニメ・コンテンツを活用するか」

パネリスト

ピーエーワークス 専務取締役 菊池宣広

九州国際大学 助教 山本健太

石川県商工労働部産業政策課 専門員 紙谷敬之

金沢大学地域連携推進センター 准教授 松下重雄

<平成 24 年度>

#### ○第一回リアル・ワールド・コンテンツミーティング

日 時 平成 25 年 3 月 2 日（土）（参加人数 160 名）

場 所 湯涌温泉 かなや

第一部シンポジウム「コンテンツによる地域活性化Ⅱ」13:00-15:00

パネリスト

ピーエーワークス 専務取締役 菊池宣広

徳山大学 准教授 和田崇

九州国際大学 助教 山本健太

神戸新聞社デジタル情報部 部長 西栄一

ぼんぼり祭り実行委員長 山下新一郎

第二部 講演「湯涌から湯乃鷺へ」15:30-17:00

講演者 アニメーション美術監督 東地和生

第三部 湯涌夜会塾 20:00-22:30

塾講師

ピーエーワークス 代表取締役 堀川憲司

アニメーション美術監督 東地和生

神戸新聞社デジタル情報部 部長 西栄一

ファシリテーター 地域連携推進センター長 神谷浩夫

### ・評価

平成 23 年度には 5000 人、平成 24 年度には 7000 人が集まった湯涌温泉におけるぼんぼり祭り（金沢市、湯涌温泉観光協会主催）を先進的事例として学術的な考察を取り入れて、市民とともに考える機会を作ったことは評価できる。

また、平成 24 年度に実施した「リアル・ワールド・コンテンツミーティング」は

湯涌温泉観光協会との共催、金沢市の後援により、全国のユーザーを対象とした学術シンポジウムによるツーリズムを達成したことは評価できる。

今後の課題として、コンテンツによる地域活性化を一つの領域としてとらえ、毎年継続して開催することで、コンテンツによる地域活性化に関する最先端の事例報告や意見交換の場となるよう育てていく必要がある。



## コンテンツによる地域活性化 アニメーション が地域にもたらすもの

昨今、地域活性化のために全国各地の自治体や団体がさまざまな取り組みを企画し実施されています。しかし、若年層に関して言えば、大学進学などを契機とした地方から大都市への一方的な流出傾向に歯止めをかけるような有効な施策は今のところ見つかっていません。

しかし、こうした若年層の交流を通じた地域活性化の可能性がまったくないわけではありません。例えば、アニメ・コンテンツによる地域の活性化です。このアニメ・コンテンツによる地域活性化では、不特定多数の若年層に対し、地域や国境を越え、即時性を持つだけでなく、フィクションのストーリーの中で、一部リアルな地域性を体験することが可能となります。そうした体験により、その地域を訪れたことのない若者がその土地に親和性を感じて足を運ぶというような、いまで例のない効果を発揮しています。

この先進的事例について、今回、金沢大学地域連携推進センターは、その当事者であるアニメ制作会社ピーエーワークス専務取締役菊池宣広氏、アニメーション産業研究の専門家である九州国際大学の山本健太氏、そして石川県産業政策課専門員紙谷敏之氏をお招きし、世界の最先端をいく21世紀の日本にしかできないコンテンツによる地域活性化の先進的方策について、学生や市民とともに考えていきます。

**日時 平成23年11月5日(土) 13:30~16:30**  
**場所 金沢大学人間社会第一講義棟 101 講義室**

**第一部 基調講演 13:30~14:15**  
「アニメ・コンテンツと地域活性化」  
ピーエーワークス 専務取締役 菊池宣広

**第二部 パネル討論 14:30~16:30**  
「地域のために、どうアニメ・コンテンツを活用するか」  
パネリスト  
ピーエーワークス 専務取締役 菊池宣広  
九州国際大学 助教 山本健太  
石川県商工労働部産業政策課 専門員 紙谷敏之  
金沢大学地域連携推進センター 准教授 松下肇雄



5000人を動員した「湯涌湯んぼり祭り」

お問い合わせ先 金沢大学地域連携推進センター 担当 竹田  
tel 076-264-5289 e-mail chrenkei@ada.kanazawa-u.ac.jp

現実社会でコンテンツに触れる、楽しむ  
そして別の視点で考える

## 第1回 リアル・ワールド・ コンテンツミーティング

The Real World Meeting for Entertainment Contents

平成25年3月2日[土]  
メイン会場 湯涌温泉 かなや

参加費 100名 参加費 13,000円(1泊2食付き)

主催: リアル・ワールド・実行委員会 (金沢大学地域連携推進センター、湯涌温泉観光協会)  
後援: 金沢市  
協力: 株式会社ピーエーワークス

お問い合わせ先  
リアル・ワールド・実行委員会事務局 (金沢大学地域連携推進センター内) 担当: 竹田・廣野  
http://www.rwm.kanazawa-u.ac.jp/event/realworld/ TEL: 076-264-5289 E-mail: chrenkei@ada.kanazawa-u.ac.jp

【参加費】 100名 参加費 13,000円(1泊2食付き)

【主催】 リアル・ワールド・実行委員会 (金沢大学地域連携推進センター、湯涌温泉観光協会)

【後援】 金沢市

【協力】 株式会社ピーエーワークス

【お問い合わせ先】 リアル・ワールド・実行委員会事務局 (金沢大学地域連携推進センター内) 担当: 竹田・廣野  
http://www.rwm.kanazawa-u.ac.jp/event/realworld/ TEL: 076-264-5289 E-mail: chrenkei@ada.kanazawa-u.ac.jp



【平成23年実施のシンポジウム】

【平成24年実施のミーティング】

#### 4.センター支援事業

##### A) 能登オペレーティング・ユニットへの支援

金沢大学は、能登半島において多岐にわたる教育研究活動を実施してきた。従来、本学の能登半島における教育研究拠点は、九十九湾岸にある「臨海実験施設」(現・環日本海域環境研究センター附属施設)が中心だったが、平成18年から、里山里海プロジェクトによる、能登地区を拠点とした教育、研究プロジェクトが大きな広がりを見せた。

これら教育、研究、地域連携事業を、さらに持続的に発展させるための運営組織と拠点施設の設立が求められたが、それらの要求に対応するため、金沢大学は、平成22年10月に能登オペレーティング・ユニットを設置した。

地域連携推進センターは、ユニットの運営に地域連携推進センターの特任教授をディレクターとして積極的に協力させている。

金沢大学は、能登学舎を一つの拠点として能登半島における本学の教育研究活動と、自治体や地域社会の連携について図りながら、さらに高度展開するために、能登に総合・多角的な教育研究拠点を形成し、先進的かつ独創的な活動を推進しながら地域に貢献することを目指す。

##### ・評価

地域連携推進センター 宇野文夫特任教授が、能登オペレーティング・ユニットのディレクターに就任し、能登学舎内で実施している各プロジェクト(「能登里山マイスター」養成プログラム、「能登里山里海マイスター」育成プログラム、「能登いきものマイスター」養成講座、能登半島 里山里海アクティビティ)について、地域や自治体と連携を密接にしながら実施した。また、平成23年には、能登オペレーティング・ユニットの活動をサポートする目的で、石川県、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町が協力して、能登キャンパス推進構想協議会が設立され、当該協議会と連携協力しながら、能登における大学機能の充実が図られている。

##### B) 角間里山本部の支援

本学角間キャンパス内の「里山ゾーン」の保全と21世紀型の活用に向けて、管理及び運営方を立案するとともに、その活用に向けた指導及び助言を行い、持続可能な社会の礎となる先駆的人材を養成するために、里山を利用した先進的かつ独創的な教育及び研究の推進を目的として、金沢大学は、平成22年8月に角間里山本部を設置した。地域連携推進センターは、角間里山本部における連携部門において中核的な役割を担い、里山ゾーンの管理に協力する地域住民をサポートするため、専任の准教授を角間里山本部幹事長代理及び角間里山本部における地域連携部門の長として兼務させるなど、積極的に運営に協力する。

##### ・評価

地域連携推進センター地域連携部門長 松下重雄准教授が、角間里山本部の統括ディレクターに就任し、幹事会実施に協力しながら、角間の里山を活用した教育、研究及び連携活動を推進してきた。

平成24年4月には、大学の里山ゾーンを活用する連携活動を応援するNPO法人「角間里山みらい」が設立され、松下准教授が理事として運営にも参加し、平成24年6月30日と11月には、NPOと大学が、地域住民及び団体と協働して「角間里山祭り」を実施し、多数の市民が大学の里山トレッキングや学生による竹あかりイベントを実施し、角間の里山と地域を結ぶ活動に協力している。

## 5.センター提供科目

### A) 共通教育科目（地域連携学入門）

#### ・趣旨

共通教育・総合科目において、センター提供の授業として、平成23年度より「地域連携学入門－金沢大学の地域参加と協働を考える」を開講し、センター教員等による授業を実施している。授業の内容は、金沢大学の3学域や附属施設で取り組まれる具体的な地域連携プロジェクトの紹介等を通じて、金沢大学の保有する多様な資源を生かした地域参加と協働のあり方、特に人的資源である学生の地域社会への関わり方等、大学と地域の連携について考える機会を設けている。

これにより、学生が①大学の地域連携（地域参加と協働）や学生の社会参加の意義について理解すること、②金沢大学が取り組む多様な分野の地域連携プロジェクトの概要・意義を学ぶこと、③学内の多様な資源を活用した地域社会の課題解決手法や活性化手法について学ぶこと、④地域に対して目を向けながら学際的な視野を広げ、社会参加のきっかけとなることを目指している。

#### ・実施状況（平成24年度時間割より、講義順）

| 講義内容              | 担当教員    |
|-------------------|---------|
| 学生の地域交流によるまちづくり   | 松下 重雄   |
| 生涯学習と大学開放         | 浅野 秀重   |
| 留学生がつなぐ地域と大学      | 八重澤 美知子 |
| 国際協力活動と大学の連携      | 齊藤 一彦   |
| 環境研究をとおした地域との連携   | 長尾 誠也   |
| 産官学連携による地域イノベーション | 吉國 信雄   |
| まちづくり・地域づくりと大学の連携 | 高山 純一   |
| 角間の里山再生と地域連携      | 佐川 哲也   |
| 過疎地域の再生と大学の役割     | 武田 公子   |
| 能登の震災復興活動と大学の連携   | 北浦 勝    |
| 地域の保健医療と大学の連携     | 稲垣 美智子  |
| 能登の地域再生と大学連携      | 宇野 文夫   |
| 能登のコミュニティ再生と大学の連携 | 神谷 浩夫   |
| 農商工連携と里山マイスター     | 川島 平一   |

#### ・評価

木曜日1限に開講する主に1年生を対象とした授業であるが、多様な分野について学ぶことができることから、受講生からの評価もまずまずである。

受講者数も年々増加傾向にあるものの、履修スケジュール上の問題から、受講者の所属学類に一部偏りがみられるため、全学的な受講となるような工夫が今後求められる。

## 6. 広報活動

### A) ホームページによる発信

地域連携推進センターで実施している、生涯学習部門及び地域連携部門の事業についてより市民に判りやすい内容に整理し、金沢大学の地域連携を深く理解してもらうため、ホームページの全面改良を平成23年度に完了した。

また、平成24年度には、点検評価報告書やタウンミーティングなどの事業報告を可能な限りアーカイブ化しホームページから閲覧できるようにすることにより、単に事業紹介にとどまらず、詳細な内容まで可視化できるように努めた。これらの全面改良により、地域連携推進センターが実施している各種地域連携事業について、市民や学生に対して理解を深めていただくだけでなく、金沢大学の地域連携が、地域住民にとって親しみをもてるようなものとなるような広報を目指した。

(地域連携推進センターURL <http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/>)

### B) パンフレット・情報誌

地域連携推進センターとしてのパンフレットを作成し、地域連携推進センターの事業やミッションを周知した。また地域連携推進センター1階センター長室にパンフ、書籍関係のアーカイブを設け、過去からのパンフレット・情報誌等の書籍記録を整理し、閲覧できるようにした。

### ・評価

地域連携推進センターとして、ホームページによる情報提供のシステム構築と、関連書籍のアーカイブ化を完了し、効率的な情報発信と、過去の地域連携事業に関する記録の整理を達成できた。今後は事業別に、学生など若年層を対象にした事業であれば、スマートフォンを活用した情報発信、高齢者を対象にした公開講座であれば、紙媒体による見やすいデザインなど、事業ごとに特化した特色ある広報活動を推進する必要がある。

大学の「知」と地域の「活力」、連携から広がる無限の可能性 夢や希望を持ち続けられる社会の実現に貢献します。

金沢大学 地域連携推進センター  
Kanazawa University Center for Regional Collaboration

金沢大学 KANAZAWA

センター紹介 About | 活動紹介 Projects | 広報情報 Press Information | 関連施設 Associated Institution | お問い合わせ Contact

大切にします。地域とのコミュニケーション。  
地域とともに！ 金沢大学。

金沢大学がしる野々の様子 (金沢市 〇がし茶屋街)

地域と大学の架け橋。金沢大学地域連携推進センター。

News&Topics

2012/3/23 生活  
平成24年度 金沢大学公開講座の詳細が決まりました。  
申込受付中です。  
[一覧を見る](#)

Events

2013/1/27 (日) 10:00~16:00 地域 MENU  
金沢大学タウン・ミーティング in 野々市を開催します。  
[詳しくはこちら](#)  
[一覧を見る](#)

参加者募集中

2011/4/1 学生  
学生プロジェクト「金沢大学放送局web-KJRS」では、新メンバーを募集しています

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として「教育」「研究」「社会貢献」を使命としています。金沢大学地域連携推進センターは、この3つの使命のうち「社会貢献」を担う役割を期待されています。大学の有する人的・物的資源を活用し、地域社会との連携を推進し、総合大学にふさわしいグローバルな視点を持ちながら地域の課題解決に取り組んでいます。

【地域連携推進センター ホームページ】

7.外部資金受入状況（参考資料）

（平成23年度 単位 万円）

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 外部資金 12,836               |       |
| 文部科学省 特別経費                | 6,860 |
| 科学技術振興調整費                 | 4,551 |
| 三井物産環境基金                  | 800   |
| 日本財団                      | 360   |
| トヨタ財団                     | 235   |
| 寄附金（株式会社アプリス 目的学生の地域貢献活動） | 30    |
| 受託事業 1,422                |       |
| 文部科学省 社会主事講習              | 199   |
| 文部科学省 学校図書館司書教諭講習         | 46    |
| 能登キャンパス構想推進協議会            | 910   |
| 石川県                       | 267   |

（平成24年度 単位 万円）

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 外部資金 5,707                |       |
| 文部科学省 特別経費                | 5,406 |
| 日本財団                      | 200   |
| 大学コンソーシアム石川               | 86    |
| 寄附金（株式会社アプリス 目的学生の地域貢献活動） | 15    |
| 受託事業 4,163                |       |
| 文部科学省 社会主事講習              | 201   |
| 文部科学省 学校図書館司書教諭講習         | 42    |
| 能登キャンパス構想推進協議会（人材養成事業）    | 2,980 |
| 能登キャンパス構想推進協議会（キャンパス事業）   | 663   |
| 石川県                       | 277   |

平成25年2月27日

金沢市副市長 濱田厚史

「金沢大学 地域連携推進センターに関する外部評価」

金沢大学地域連携推進センターの平成23年度及び平成24年度の2か年における活動は、「生涯学習部門」、「地域連携部門」の両部門において、前回と同様、各種事業を活発に展開し、継続して相応の成果を上げている点で評価できる。

特に、生涯学習部門においては、様々な機関との連携・共催によって、金沢大学単独では得ることが難しい広報効果や企画力を強化し、効果的に大学の研究成果の地域還元を図っているという点で、地域連携部門においては、「1-3 センターの重点事業」の項にあるとおり、重点事項を明確化して取り組んだ結果、地域資源を活用した人材育成事業や学生らによる地域住民との交流・教育活動など事業に広がりや深まりがみられ、いずれの事業も連携団体・地域において好評を得ているほか、その成果を拡大発展させた新規事業を立ち上げるなど、地域の期待に応え、また、そのニーズに合致した事業展開が図られたという点で高く評価できるものとする。

一方で、今後検討・対策が必要と思われる事項も見受けられる。

#### ①生涯学習部門について

市民向け講座は、開催講座によって受講者数に大きな差が生じている。受講者の希望、意見などと合わせ、講師やテーマの選定といった講座の基本的構成のほか、開催場所、より大きな広報効果の獲得など様々な視点から検証を行ったうえで、行政や新聞社など多様な機関との連携関係を活かし、より一層市民の期待とニーズを捉えた講座編成となるよう、発展的に活動していただきたい。

#### ②地域連携部門について

重点的な事業展開で評価すべき点がある一方で、結果、限られた地域・特定の分野への偏りが生じている。活用可能な地域資源は、里山・里海のみならず、まちなかにも豊富に存在し、それぞれが抱える課題も多種多様である。学生の活力や大学の研究成果を「広く」地域に還元していくため、資金や人員、拠点の確保といった推進基盤の充実やプロジェクトの決定プロセスなど推進体制の検証も図りながら、地域が大学に寄せる期待と大学が取り組むべき課題との接点を、より広いフィールドの中から見出し、今後の事業開発に繋げていただきたい。

金沢市としても、まちなかにおける学生の拠点施設や茶室・美術館等文化施設を活用した講座の開催について協力が可能であり、今後、連携事業としての拡充が図られることを期待するものである。

#### ③その他

今回の自己点検・評価全体を通して、前回の自己点検評価及び外部評価から得た課題の分析や検討に関する記載に欠けていると感じる。地域連携推進センターの各部門、各事業はもとより、センター自身の持続的発展のため、自己点検・自己評価を実施するうえで必要な観点ではないかと考える。

平成 25 年 3 月 6 日

富山大学地域連携推進機構 藤田 公仁子

「金沢大学地域連携推進センターに関する外部評価」

## 1. 全般的な評価

### (1) 生涯学習部門

住民の学習ニーズに応える学習機会の提供として、多様な公開講座・ミニ講演・市町村との共催講座が実施されている。大学に蓄積された研究と教育の成果が、広く地域へ還元されており、その中で自治体と連携した事業が活発に実施され、多種多様な学習機会の提供に取り組んでいることを高く評価したい。

また、サテライトでの事業・東京都中央区と共催の事業・新聞社と連携した事業が実施されていることも、「開かれた大学」としての多種多様な可能性を持つと言える。

社会教育・生涯学習専門職員の養成事業は、大学の果たすべき重要な役割の一つである。その意味では、長年「社会教育主事講習」と「学校図書館司書教諭講習」を実施してきていること、自治体との共催による社会教育・生涯学習専門職員の研修事業を実施していることは、地域の社会教育・生涯学習の推進に貢献するものである。こうした研修事業をとおして地域生涯学習のネットワークづくりが志向されていることも非常に重要である。

### (2) 地域連携推進部門

能登地域や金沢市・小松市をフィールドとして、学生の参画による地域活性化が図られていることは高く評価できる。学生が伝統的な「祭り」に取り組むことや、輪島の「間垣」保全をサポートすること、「こまつ里山・里川プロジェクト」事業を実施することは、地域活性化や伝統的な文化の継承という課題に学生の特性をいかして応えるものである。また、学生の教育という意味でも、地域課題に取り組むことの意義は大きく、学生を対象として地域との関わりで展開される授業は重要なものと言える。

「マイスター」の教育システムは、地域における人材育成事業として重要な意義を持っており、地域連携事業の一つの方向性を示すものと言える。

こうした事業を展開する上で、行政・民間からの外部資金を積極的に利用していることは、高く評価されるべきである。

以上、2つの部門が多種多様な事業を展開する中で地域社会に開かれた大学づくりを図るという目標は、概ね達成されていると考える。この2年間の活動は、「知の拠点」として積極的に現代的な課題、地域課題に取り組み、人材を育成し、幅広い「知」の還元を通じ地域社会に貢献しているものであり、高く評価することができる。

## 2. 課題

今後の課題として以下の2点を挙げたい。

(1) 複雑な社会背景のある中で、住民の多様な学習ニーズを的確に把握するための努力がいつそう求められてくると考える。公開講座・ミニ講演への参加者に限らず、「大学開放」への住民や行政等の期待は大きい。関連して、外部の諸機関・団体・NPO等との連携による地域生涯学習ネットワーク組織化を恒常的にどのように図るのか、ということ視野に入れた、短・長期的な地域連携推進センターの事業に計画的に取り組むことも大切ではないかと考える。

(2) 地域との連携事業において学生の積極的な参加・参画を図っているが、地域連携推進センターとしての取り組みだけでなく、全学的な位置づけの下での事業展開が必要になってくると考える。金沢大学として、大学教育の中で、地域と連携しながら学生が地域との関わりの中で成長することを確認していくことも必要であると考える。

今後の金沢大学地域連携推進センターの益々のご発展を祈念申し上げます。